

元の理～この世の摂理～

2020.12.10 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。 *「理」=事実、要因

どんな時も、この身、全てを借りてることを忘れずに。

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。

ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

過剰（くもよみ 不足）：不要なや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。

お節介や勇み足、悪い方への誘引

引き出し3割の加減

不足（くもよみ過剰）：物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質に気付けず引き出せない状態。他人に対して見下す心（優越感）、自分に対して過度にへりくだる心（劣等感）など。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。勇み心を八方へ。

過剰（たいしょく天 不足）：受ける側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。两者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足（たいしょく天 過剰）：受ける側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声（耳障り）の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。

物事の起点となり、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。冷静で、広大な海の心。目の前ではなく、遠くの景色を見るから落ち着く。気長にやさしく。物事の根を綺麗にする心。見えない陰で尽くす楽しみ。「目は心の窓」眼は心根の現れ。

くにとこたち不足時：
熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火、地震、砂漠化、高血圧、不安症、ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、震え、眼の腫れ etc.

『この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。

また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、「自分は」どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

天とは、普段見えない陰の働き。

心もまた目に見えない陰の働き。
天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

過剰（かしこね 不足）：物事が處理しきれず、その状況を断ち切る状態。瞼が勝手に下がってくる状態。

不足（かしこね 過剰）：物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

過剰（をふとのべ 不足）：物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。物忘れの傾向。

不足（をふとのべ 過剰）：物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。食わず嫌い状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰&不足：物事が身に付かず、朝を迎えない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎られない、無理な辛抱や我慢

柔軟に流れに合わせて。苦（雲）のない循環はない。

人を助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント！

【二つ一つの理とその均衡】
対になる働きは、まるでシソーラのように連動して作用している。

①くにとこたち：②をもたり
③いざなぎ：④いざなみ
⑤くにさづち：⑥月よみ
⑦くもよみ：⑨をふとのべ
⑧かしこね：⑩たいしょく天

隣り合う働きも夫々似ており連動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。

[HP:https://karakosha.net/youkyusan](https://karakosha.net/youkyusan)

どこまでも、ひくい、やさしい、すなおな心、眞実の心で。

心定めが全ての起点。

お蔭様の理。

場所を定める。

無意識領域。

本心。魂。

左の役割

朝起き 陰徳の心。

志は大きく。

水のように冷静になって思い切り、

物事が新たな楽しみへ転じ変わる。

死ぬというのは、着れなく

なった衣服を脱ぎ捨てるの

と同じこと。

自分でまとう欲(泥)を捨て
いんねんを切り替える。

陽3: 陰7

1くにとこたち

体内：眼、心根、睡眠、感覺神經

副交感神經、潤い、体の70%水分

世界：水、雨、海、根、夜

地球の70%水分

宇宙の70%暗黒エネルギー

一日はじまる

北 立春 一月

十日十分 北東 春分

*太陰太陽暁

日の出

七日 なんにも 言うことない 東

陽7: 陰3 立夏

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して

迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心

八日 八方ひろがる

九日 苦がなくなる

西 立冬 十四

十五 六日 六だいおきある ろうくに治まる

陰での働き

陽3: 陰7

6月よみ

体内：骨、首、足腰、男一の道具

世界：つっぱり支える働き

立てる働き、柱、茎

月、月の引力

北西 冬至

六日 六だいおきある ろうくに治まる

陰での働き

時旬を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

陽3: 陰7

9をふとのべ

体内：出産時に子を引き出す働き

身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き

世界：引き出し一切、教育

引力、動植物の成長

西 立冬 十四

十五 六日 六だいおきある ろうくに治まる

陰での働き

夫 ③いざなぎ

男、種(元)の働き

まっすぐ堪能の心

三日 みにつく

日の入

秋分 南西

八日 八方ひろがる

九日 苦がなくなる

西 立冬 十四

十五 六日 六だいおきある ろうくに治まる

陰での働き

女、苗代(環境)の働き

素直に受け入れ育む心

四日 仕合せ

陰での働き

婦 ④いざなみ

女、苗代(環境)の働き

素直に受け入れ育む心

四日 仕合せ

陰での働き

夫 ③いざなぎ

男、種(元)の働き

まっすぐ堪能の心

三日 みにつく

日地 母

陰の働きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心

陽7: 陰3

2をもたり

体内：体温、活力、感情

交換神經、運動神經

世界：火、太陽、熱、光

マントル、エネルギー

右の役割

右親指

意識領域。

ほこりやいんねんを

厳しく現す性質。

陰での働き

夫 ③いざなぎ

男、種(元)の働き

まっすぐ堪能の心

三日 みにつく

日地 母

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の台、原動力となる。

人を喜ばせ、助けたいという思い。感謝を行へ。

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の台、原動力となる。

人を喜ばせ、助けたいという思い。感謝を行へ。

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある...

心のほこり(毎日払い、人にほこりを積まぬよう)

おしい、ほしい、かわいい、よく、こうまん

にくい、うらみ、はらだち、嘘、追従(我が身心を捨てる)